

グアム派遣の思い出

佐藤 響



これは Talofofu へ行く途中の船の中の写真です！まわりにはヤシの木などのたくさんの自然がありました。ここでは昔、横井庄一さんがずっと戦争だと思い続けていて28年間も隠れていたところでした。

ホストファミリーとの交流

ホストファミリーと最初は話すスピードがはやかったり、何を話題にすればいいのかわからなかったのですが、家で過ごす時間が増えてからは日常生活で使うちょっとした会話が増え、どんどん話しかけてくれて話せるようになりました！また、私のカウンターパートと一緒にいる時間

間は中学生の間で人気の歌やゲーム、お菓子を知り、グアムの人の英語の使い方を学ぶことができました！具体的に説明すると、歌では Ariana Grande と Nathan Sykes の『Over and Over』や Little Mix の『Secret Love Song』です。ゲームでは『COLOR SWITCH』でお菓子では『ねるねるねるね』のような商品をすごく気に入っていて何度も動画を見ていました！車の中では私が写真を撮るのが好きだということを知っていたので外の景色がきれいだと車を止めて撮らせてくれたり、外にある建物の説明をたくさんしてくれました！

みんなのカウンターパートとみんなで食事などをしたときには人の特徴を見つけ合ったり、一人一人の『誕生日』や『名前』、『年・学年』、『好きな色』などを覚えるゲームをしました！

Traza Waterpark ではみんなで鬼ごっこをしたのですが、『鬼』の言い方がわからず、日本人の派遣生は『Who is an unlucky human now?』と聞いてごまかしながら鬼ごっこをしました！途中からはみんなで浮き輪にのって列になって繋がって流れるプールをぐるぐると回っていました！

学校の中ではカウンターパート達の名前を『漢字』、『平仮名』、『カタカナ』で書いて見せたり、英語で言われた言葉を日本語で教えてあげると『ハイタッチ えび！』や『おはようございます！』、『私の名前は〇〇です。』と話してくれたり、逆にカウンターパート達がチャモロ語をわかりやすく教えてくれました！休み時間にはみんなで体育館へ行ってバスケットボールやバレーボールをして遊び、絆を深めました！そして、BBQ のときにはみんなやみんなの兄弟たちと一緒にいかだに乗り、『海って怖いよね！』、『ううん、私は魚が怖い！』のような会話をして知らない子とも話して friendly になることができました！この時のいかだの思い出が一番の思い出です！

～全体を通して感じたこと～

- ・日本語のようにだらだらと続かず、英語の方が簡潔に話せることが分かった
- ・『Yes』か『No』で答えてくれるのではっきりしていて悩まずにすむのでいいと思った
- ・日本人との会話の中では言いづらいこともグアムの人は positive なのでいいやすい
- ・会話力よりも積極的に話しかけて伝えようとする気持ちが大事だということ
- ・高齢者を大事にすること
- ・時間にルーズだということ
- ・日本の食文化がどれだけ優れているかわかった

毎日、だいたい同じ時間にご飯を食べること / 一汁三菜+お米というバランスの良い食事だということ

- ・日本の英語の授業では習わないけれど『Here you are.』のことを『Here you go.』と言うこと
- ・電話の時だけではなく、日常会話でも『Hold on, please.』と言うこと